

一人1台のタブレットが 子どもたちの学びを深める

— 宮城県富谷市

目的

- 扱いやすさ・安全性を踏まえて児童生徒の学ぶ環境を整えたい
- ICT活用を場を広げ、効果的な学びを実現したい
- 授業での活用だけでなく、他にも活用も図りたい

アプローチ

- 小中学校ともにLTE・Wi-Fi対応タブレットを導入
- 情報活用推進リーダー会で効果的な使い方の検討
- 教員間で活発に情報交換し、ビデオ会議などにも活用

タブレットを使った学習で笑顔があふれる教室

富谷市ではGIGAスクール構想を受け一人1台の端末整備を行うにあたり、扱いやすさや安全性などを検討しLTE、Wi-Fi両対応のタブレットを選定。2020年度中に市内すべての小中学生にタブレットが行きわたり、活用を重ねてきました。教室には、生き生きとした表情でタブレットを手に学習する子どもたちの姿があります。

小学校低学年から当たり前の文房具として定着



富谷市立明石台小学校では、2年生の教室で音楽の授業「声で音楽を作ろう」が行われています。言葉選び、音の高さ、強さ、繰り返す回数、リズムを工夫してさまざまな表現をする学習で、この日のテーマは「雨の音」。担任の小田島奈緒美教諭は「みなさんの声の雨を降らせてください」と呼びかけ、子どもたちは次々にタブレットで自分らしい雨の表現を録音しました。

お互いの声が入らないように離れた場所で録音したあとは、グループで聞き合い順番を相談して一つにつなげます。完成した声の音楽は各グループから先生に転送。先生が自身のタブレットから順番に再生してクラス全体で鑑賞しました。「音は一瞬でなくなってしまうので、せっかくなので練習をしても発表の瞬間がすべてになってしまいます。タブレットを使って録音すると、子どもたちが自分で一番いいものを選んで発表できるのがいいですね」と小田島教諭。鍵盤ハーモニカなどの学習でも録音して提出するという方法を取り、集団行動が制限される中でも対応できています。

声の録音、グループでの共有、音声の接続、先生への転送は、いずれも直感的な情報共有アプリで一貫して行ったので操作はとともかんたん。子どもたちは扱い慣れていて、低学年でも迷うことなくスムーズに進行します。



富谷市教育委員会

〒981-3392 宮城県富谷市富谷坂松田30番地

URL : <https://www.tomiya-city.miyagi.jp/>

宮城県の中部に位置する富谷（とみや）市には、小学校8校、中学校5校があります。2020年度のうちにGIGAスクール構想に基づく環境整備を進め、全小中学校にタブレットを導入しました。2020年11月には、市内全域の小学校・中学校で一人1台の環境が整い、積極的に活用しています。



[取材協力] 富谷市立明石台小学校（上）
富谷市立富谷第二中学校（下）

授業から学校間の情報共有までタブレットが大活躍

教科書、ノート、タブレットの3点セットが基本

小田島教諭は、ほぼすべての教科や学級活動でタブレットを活用していますが、手書きの活動も変わらず行っています。この日の授業でも、子どもたちは振り返りをプリントに記入し、タブレットで撮影して先生に転送して提出しました。低学年ではかな入力を使うこともあります。時間もかかるので目的に応じて使われています。紙のノートに比べてタブレットの利点は、修正が簡単で何度でもやり直せること。気軽に書いたり消したりしながらより考えを深められる効果があると小田島教諭は感じています。



小田島奈緒美教諭

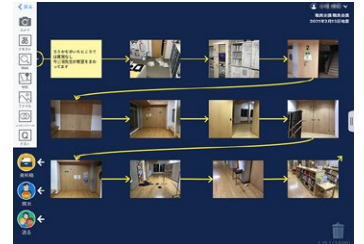


提出物など子どもたちの成果物はタブレットに集約されるようになり、先生の作業効率は大幅にアップしました。また、多忙な先生間のコミュニケーションにも積極的に活用されています。

教員の一人1台環境で授業アイデアの共有も手軽に

明石台小学校の栗田あゆみ校長は、子どもたちに情報活用能力をつけてほしいという思いで活用を推進しています。特に昨今の授業研究では、密を避けるために栗田校長が授業を撮影して動画で共有。教員間で“こんなこともできそう”という思いが広がり、消極的だった先生も使うようになったといいます。市内の学校間でも授業動画の共有が行われ、「発信しながら、他の学校のアイデアもどんどん取り入れています」と栗田校長。教員に一人1台のタブレットがあることが、活発なつながりを生み出しました。

富谷市教育委員会の教育部学校教育課参事兼指導主事の佐藤広昭氏は、各学校の情報活用推進リーダーが集う研修会を継続してきたこと、日頃の情報共有で活用が定着してきたと話します。特に東日本大震災の余震があった2月には、タブレットで安全確認などの対応が行われ、緊急時の大切な連絡手段になりました。



栗田あゆみ校長

佐藤広昭氏

意見の共有が効率アップし考えを深める時間が拡大



教科ごとに活用を工夫する中学校

富谷第二中学校では、教科ごとに工夫してタブレットを活用しています。理科の授業では生物の分類の理解を深めるために、正しく絞り込みできる設問を組み立てる学習が行われています。各自で画面内の要素を動かして試行錯誤したあと、グループで共有して意見交換しました。



同校の教務主任で数学科の黒澤達弥教諭は、タブレットは、クラス全員の意見を共有するのに非常に便利だと話します。黒板で発表する手順と比べて圧倒的に時間短縮ができ、その分、子どもたちが考えを深めたり学び合ったりする時間を確保できるようになりました。面白い解き方をしている生徒がいれば、ノートを撮影して送ってもらっただけで全体に共有ができます。授業準備も様変わりし、先生からの資料配付はプリントではなくタブレットを通じて配信するというスタイルが増えました。

タブレットで子どもたちの集中力が上がる

タブレットを使う授業シーンでは子どもたちの集中力が上がると複数の先生が感じています。「資料を配信すると、一人ひとりが自分の手で自分の意志で動かして確認できるので、“お客さん”にならずに集中しています」と黒澤教諭。自分のペースで見たり読んだりできることが、子どもたちの学びへの主体性につながっているようです。



黒澤達弥教諭

授業以外にも活用は広がり、ソーシャルディスタンスを確保したビデオ会議での集会などもLTE通信のおかげで無理なく行えます。各種活動や校務での活用を支えるのは、教員間に広がる“新しいことをみんなでやっという意識。佐藤氏は「LTEタブレットの強みを活かし、今後は持ち帰りも視野にいれ、ルールやモラルの学習も進めていきたいと考えています」と話し、市内でさらなる活用が広がる見通しです。



お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター(☎0120-808-539)
受付時間：平日午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ドコモのホームページ 法人のお客さま
教育の場にICTを!

https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/

